

各課へのヒアリング内容（事務局実施分）

該当ページ	担当課	令和2年の取組予定（目標）	ヒアリング内容		エコオフィス取組状況
P.1	商工観光課（観光振興室）	市内に三か所あるakippaの駐車場の利用促進	取組結果の詳細	シェアリングエコノミー促進のため、akippa駐車場の市役所前倉庫跡地について、グレーチング等を購入し、駐車場の整備を行った。	取組状況は良好である
P.2	農林課	引き続き、森林現況調査を実施するとともに、竹林所有者調査も実施する。	課題と改善方針の詳細	・引き続き、森林現況調査を実施し、竹の有効活用についても検討を進める。 ・今後の取組として、サラリーマンや主婦などの層が趣味的に農業を始められるような支援を検討している。	アンケートにおいて、「階段の使用を励行し、エレベーターの使用をできるだけ控える」との回答率が高かったことが評価できる。
P.2	商工観光課（観光振興室）	引き続き多数のハイキングツアーを開催していく。PRも強化し、市外在住者の参加も増やす。	課題と改善方針の詳細	今後は、生駒山を中心としたワーケーション受入れプログラムや生駒市ならではの体験コンテンツの販売、観光協会と連携した二次交通の導入等を検討する	-
P.3	みどり公園課	ワークショップ等で利用者の意見を聞き、長寿命化計画に基づく工事を実施する	ワークショップの今後の予定及び改善方針の詳細	ワークショップの今後の改善点として、現地での投票方法への変更等を検討している。今後も情報発信方法を工夫しながら、まちなかの緑化を推進していただきたい。	両面印刷、片面使用済み用紙の使用、集約印刷（2アップ印刷等）を活用されている点が評価できる。
P.5	清掃リレーセンター	リユース市：コロナ対策の観点から、3密を避けながら、事務所前での先着順で購入者を決める方式を改め、メール等を活用し、くじ引きで購入者を決める方式で7月に実施予定	取組結果の詳細	コロナウイルス対策の観点から、家具のリユース品販売の形式を先着順からオークション形式に変更した。さらに、売れ残った品もエコパークで無料展示配布を実施し、リユースを徹底している。	取組状況は良好である
P.8	総務課	引き続き公用車等の車両更新時に電気自動車の導入を検討する。	取組結果の詳細	公用車更新の際に、ハイブリッド車を1台更新した。今後は電気自動車の導入も検討する。	庁舎管理において、年末のごみ廃棄における分別を徹底されていることが評価できる。
P.12	農林課	各種情報の収集に努め、農福連携等、農業者による取組を支援する。障がい者の職場体験受け入れ予定。	課題と改善方針の詳細	今後の取組として、サラリーマンや専業主婦が気軽に農業を始められるような取組を検討し、多様な主体や働き手が農業分野で活躍できる環境を整える。	-
P.12	市民活動推進課	前年度に実証実験を行った「資源循環コミュニティステーション」を含め、多様な住民が参画できる複合型コミュニティの形成に係る支援を行う。	課題と改善方針の詳細	今後の取組として、集会所や自治会館のリモートワーク利用促進、緑道カフェ、資源ごみの収入化などの取組をさらに推進していく。	・使用済み封筒を庁内で活用している点が評価できる。 ・公用車運転時に、なるべくエンジンブレーキを使用する、アイドリングストップの意識を高める、等エコドライブに配慮いただいていることが評価できる。

各課へのヒアリング内容（追加質問）

該当ページ	担当課	令和2年の取組予定（目標）	ヒアリング内容	各課の回答
P.2	農林課	引き続き、森林現況調査を実施するとともに、竹林所有者調査も実施する。	高山地域は荒れた竹林が多く、今後が心配であるため、10カ所の森林の分布状況・種類の状況を知りたい。	別紙
P.4	花のまちづくりセンター	（みどりの基金を活用した緑化推進について） 昨年度と同様の取り組みを行う	従来の活動団体は、参加者の高齢化などにより活動内容が縮小傾向にあるため、今後若い層の参加をどう促していくのか。	<ul style="list-style-type: none"> ・緑化活動を従来の手法に加えて多様なモデルに変えていくことや、一年間を通じた緑化活動にこだわらないやり方などを考え、SNSなどを活用した手続きの簡素化などを実施し、重点的にPRする。 ・広報媒体などを活用し、助成金を活用した緑化事例を紹介することにより、「若い層」の緑化活動への参加を促す。
P.4	花のまちづくりセンター	（花とみどりの景観まちづくりコンテストの開催について） 昨年度と同様に参加者を募集し、選考を行う	課題に「参加団体の固定化が進んでいる」と書かれているが、その解決策はあるのか。	<ul style="list-style-type: none"> ・今後は参加へのハードルを下げるなど、すそ野を広げる方法ことが重要であり、新規若年層を対象とした新しい部門を設けることが重要である。いつでも応募可能である、SNSでの応募、現地審査を取りやめて写真審査のみにするなど参加しやすいようにする。 ・またこれまでの既存部門と新設部門と合わせて表彰することで、表彰式の後で部門間の情報交換ができるような機会をつくり、参加者のすそ野を広げる。
P.6	SDGs推進課	環境施設見学会を実施し、リサイクル・ごみ処理施設の見学会を開催する	環境施設見学会・エコネット講座の参加人数は。	11月17日に環境施設見学会とエコネット講座を同時開催。市内の環境施設（リサイクル施設、一般廃棄物処理施設、市民共同太陽光発電所ほか）をめぐる見学会を行い、7人の市民が参加。
P.8	SDGs推進課	超小型モビリティの利用促進を図る	現有台数と1台あたりの価格・利用状況・C評価の理由は。	別紙

P.8	SDGs 推進課	いこま市民パワーによる日本版シュタットベルケモデル構築事業	いこま市民パワーの供給件数について、家庭への供給が進展しない理由は。	
P.10	防災安全課	ハザードマップの増刷	ハザードマップは配布されるだけでは、なかなか活用されない。防災訓練などに関連付けて活用される方法はないのか。	地域の防災訓練時において防災安全課による講座を実施している。特に警戒区域にあたる地域では、重点的にワークショップを実施して住民の意識を高める取組を行っている。また、小・中学校にて児童・生徒向けに出前講座も実施している。現在はコロナウイルス感染症の影響により実施できていないが、収まり次第再開する予定。

超小型モビリティについて

<保有台数>2台

<購入単価>726,296円（補助金7万円適用）

<利用実績>

		平成28	29	30	令和元	2
1号機	走行距離(km)	449	339	264	570	104
	累計	878	1,217	1,481	2,051	2,155
	走行回数(回)	50	38	35	56	8
	累計	108	146	181	237	245
2号機	走行距離(km)	429	302	389	605	193
	累計	933	1,235	1,624	2,229	2,422
	走行回数(回)	56	44	46	64	23
	累計	125	169	215	279	302

※令和2年度には、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、「こんにちは赤ちゃん事業」を休止したため、利用実績が減少している。

<C評価の理由>超小型モビリティの導入を始め、各種施策の実現に至らなかったため